



校訓「自主」「練磨」「創造」

(篠栗北中HP (Facebook)) を公開中!!

令和4年10月19日 No. 11

CS篠栗北学園 篠栗町立篠栗北中学校

校長 松本 修

生徒数329名

	男子	女子	合計
1学年	39	61	100
2学年	73	47	120
3学年	61	48	109

<感謝と共生のある学校に向けて>

北中重点目標 『心の挨拶』

○R5年度 生徒会役員決定 <敬称略>

9月30日(金) R5年度生徒会役員選挙を実施しました。当選者は下記の通りです。

新たな生徒会文化を創っていきましょう。

役員	氏名	クラス
会長	千布 悠仁	2年1組
副会長	村崎 絢音	2年3組
書記	高倉 楓	2年1組
学習	小江 優里奈	2年3組
環境	上甲 愛	2年2組
文化	豊田 朔人	2年2組
給食	三好 龍希	2年3組
保健	高峰 千華	2年1組

○10月8日(土)~

糟屋区中体連新人大大会が始まる

R4年度 糟屋区中体連新人大大会結果 <敬称略>	
部活動	結果
軟式野球	1回戦 惜敗
サッカー	1回戦 惜敗
男子ソフトテニス	団体：2回戦 惜敗
女子ソフトテニス	団体：優勝 (地区大会出場)
男子バスケットボール	1回戦 惜敗
女子バスケットボール	1回戦 惜敗
男子バレーボール	地区大会決め 惜敗 ベスト6
女子バレーボール	1回戦 惜敗
男子卓球	団体：筑区大会決め 惜敗 ベスト6
女子卓球	団体：筑区大会決め 惜敗 ベスト5

結果は下記の通りです。

○10月5日(水)

初任者授業研修会を実施

10月5日(水) 初任者授業(教科)研修会を実施しました。福岡教育事務所より指導主事が来校され、下瀬 雄一郎 教諭(理科)・浦田 和弥(社会) 教諭の授業参観や指導助言をいただきました。

指導主事からは、二人に与えられた課題「生徒主体」というキーワードをいただきました。これからの教育は「教師が教える」ではなく、「子どもたちが学び合える」に変換しなくてはなりません。この研修会で学んだことを職員で共有し、子どもたちに返していきたいと思っています。



○10月7日(金)

「88タイム」のコース発表会を実施

10月7日(金) 「88タイム」のコース発表会を実施しました。今年度は「行きたい・住みたい篠栗町になるような方法」を自分で考え、提案する88タイムでした。

篠栗町産業観光課の方々にも参観していただき、子どもたち一人一人の提案する姿や内容に感激されていました。

今週、21日(金)の文化発表会で代表者が発表します。



○10月11日(火)

篠栗町教育委員会の学校訪問を実施

10月11日(火) 篠栗町教育委員会(8名)の学校訪問を受けました。2時間の授業参観の後協議会があり、これからの北中に期待することを含めた指導助言をいただきました。いただいた指導助言については、教職員で共有し、改善していきたいと思います。

尚、裏面に「学校訪問報告」を掲載しています。



○10月13日(木)

PTA家庭教育委員会の講演会を実施

10月13日(木) PTA家庭教育委員会の講演会を実施しました。講師に岡山コミュニケーション研修企画代表 稲田 尚久 氏をお招きし、「思春期の子どもへのやる気をつぶさない関わり方」について講話をいただきました。あっといふ間の時間でした。

家庭教育委員会の皆様、これまでのご準備ありがとうございました。 ※裏面に続きます。

# 篠栗町教育委員会 学校訪問の報告

文責:教頭 伊丹晶子

1 実施日 令和4年10月11日(火)8:30~11:50

2 訪問者 今長谷教育長、木森教育長職務代理者、田熊教育委員、田中学校教育課長、小山係長、  
下川指導主事、神谷主査、五十部主査(8名)

3 指導助言【よい評価(○)、今後の改善点(●)、今後の方向性に関するご意見(◇)】

(1) 生徒の姿について

- 生徒の挨拶の声が大きく、元気がよかった。「自分から先に」挨拶ができています。
- 生徒の笑顔が多い。本年度の重点目標の“笑顔で”が達成できている。
- 全体的に生徒が落ち着いていて穏やかな印象を受けた。挨拶の元気よさとのメリハリがある。
- 欠席者が少ないクラスが多かった。
- 篠栗北中は、全国学習状況調査で「先生がよいところをほめてくれる」の数値が高かった。  
生徒と先生とのよい関係性が築けている。

(2) 授業について

- 電子黒板の使用率が高い。タブレットも効果的に使えている。生徒はICTを使って多くの情報を得られるのでとてもよい環境である。
- 生徒の「問いをもつ活動」(例:数学の「条件に合う携帯電話の料金プランを説明する課題」)「思考の見える化」(例:理科の「自分の意見→図で説明→他の人の意見を書く→再考したことを書く学習プリント」)が見られる授業があった。
- 授業の終末が、授業の意欲が次の時間につながるものになっている。(例:保健体育の「次の時間の自分の技を確認したり、注意点を自覚したりする場面」)
- 「個別最適の学び」と「協動的な学び」を実行するためには、教師の「手立て」が不可欠である。手立てを意識して授業を組み立ててほしい。
- ◇ 今後さらに思考を組み立てて発信、表現する授業改善が必要となるので、推進いただきたい。

(3) 環境について

- 教室の前面がシンプルで、統一されていてよかった。
- 廊下の掲示物に考えさせたり、呼びかけたりする内容があり、学びにつながるものだった。
- 清掃が行き届いて、清潔な環境だった。
- コロナ対策として、教室の換気ができていた。
- インクルーシブ教育をめざし、板書に「今日の授業の流れ」や「単元の流れ」などがあるとよい。
- 学級札が廊下から見えるように張り出されていると、授業参観時などもわかりやすくてよい。
- ◇ 身体も大きくなり、タブレットも使うので、机が小さく感じる。

(4) 教育活動全般について

- 篠栗北中は、さまざまな取組を通して、生徒の社会力、人間力を醸成しようとしているのがわかった。小中一貫教育の「発展期(R4~R6)」に入り、これまでの成長が見られる。|小|中は人間関係の固定化というデメリットもあるが、中学卒業後のことを考え、今後も社会性をつける教育活動をすすめてほしい。
- 不登校を生まない取り組みがなされているのがわかった。生徒の居場所となる部分が随所に見られた。(ブロック制の日常化、掲示物、文化週間の展示の作品、英語のリーディング、合唱)
- 学力の課題は、小学校の頃から現れている。ぜひ小学校と学力分析で連携を強くし、入学当初から学年の力点を確認して、学力を伸ばして行ってほしい。特にD層を減らすように努力してほしい。
- ◇ 非認知能力を育成するためにも地域での活動をこれからも推進してほしい。地域の人材を88だけでなく、教科でも活用し、カリキュラムマネジメントをすすめてほしい。